

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみのり園
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県薩摩郡さつま町宮之城屋地 1358-2
記入者名 (管理者)	峯 進
記入日	平成 21年 3月 1日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中に自由でありのままの生活を念頭とし5つを掲げ知人や地域の方々には気軽におじゃったもんせとしている。	○	地域の高齢者いきいきサロンとの交流の場としてみのり園を活用して頂いている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をリビングの見やすい位置に掲げ職員全員で再認識できるよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所時に家族に基本理念の説明をし浸透を図り、地域住民にはいきいきサロンや来園時に入所案内パンフレットなどを配布し理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕の挨拶はもとより利用者と共に日常的に散歩に出かけ近隣の方々と会話しお茶にお誘いするなどつき合いができるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入は無いが公民会長が当園の運営推進会議の構成委員であるため常に連携がとれ地域の一員としての役割は担っている。	○	公民会行事への参加及び地域高齢者や子供会との交流などに力を注いでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者にみのり園だよりを配布したり敬老会や慰問時の案内をするなどで独居の方々の安否確認をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長をはじめ全職員で外部評価や実地指導等での指摘事項について検討し改善、対策し利用者及び家族 又地域の方々に慕われる園となるよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し利用者及び家族の意見や要望等を運営に活用できるよう取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議はもちろんのこと当園の行事等へ参加をお願いし運営の指導助言をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに成年後見制度や地域福祉権利擁護事業についての勉強会をしたり研修会に参加し知識の向上に努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向け取り組みを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し不安や、疑問点をなくし納得された上での入所としている。解約についても十分な説明をし納得のうえ行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族とは毎月面談をし意見や要望等を求めているが、不満や苦情などはあがっていない。おおむね満足している。	○ 毎月1回利用者と語る会を実施し意見や要望を聞き運営に反映させたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回面談をし現況報告をしている。また遠方の家族には園便りや担当スタッフが近況報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けてないが毎月家族との面談をし意見や要望等を聞き問題点は職員会議で検討し対応改善するよう努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議において職員の意見や要望等を集約し母体であるトウスイ会の会議に提案し反映できるよう配慮している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるよう管理者が控えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	トウスイ会としての職員の移動は行わないようにしている。グループホーム内で居室担当の移動はあるが、利用者のダメージを最小限とするよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ職員の能力にあった講習会や研修会に参加し知識の向上及び資格取得できるよう配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所外の講習会に参加し他事業所の職員交流が図れるよう参加の機会を与えている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員と面談し悩みや困っている事はないかなど相談できる機会をもっている。職員親睦会があり食事会などでストレス発散としている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会や他グループホーム視察などそれぞれ職員個別に参加する機会を与えている。また資格取得に向け指導助言している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を把握するように努めて本人の悩みや不安を解消し利用者及び家族が安心できるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談（入所申請）があつてからは、定期的にご家族に連絡し不安なこと、求めていることなど相談できるよう努めている。尚利用者本人の状況確認を行っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当園に相談にこられるときはほとんどが入所に対する相談がほとんどである。必要であれば適切なアドバイスをすると共に他施設の紹介や他のサービス利用の助言を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には施設見学を実施していただき職員や利用者の雰囲気など体感していただき納得した上での入所としている。1日体験入所等も勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的雰囲気や重んじ利用者個々人のできることを把握し役割分担を決めお互い協働しながら和やかにすごせるよう配慮している。	○	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面を作るようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え家族に安心していただくよう配慮し又家族の協力もお願いできるよう連携を図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の状況を見極めながら、外出や外泊で家族と過ごすことを勧めたり、行事に家族をお誘いし家族と共に過ごす機会がもてるよう配慮している。		

項 日		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの、知人、友人の家に遊びに行ったり、継続的な交流ができるよう働きかけている。	○	定期的なふるさと訪問を実施するよう計画する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が良好に保てるようスタッフは、利用者一人ひとりの性格や行動を把握し皆平等に楽しく暮らせるよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後においても定期的に電話、訪問により利用者の状況確認、家族の状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営理念の自由でありのままにを掲げているように本人主体で思うように生活していただいている。	○	利用者と語ろう会の日を設け利用者の意見や要望を聞く機会を作る。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族、または介護支援専門員などから情報収集し、暮らし方や生活歴などを把握し介護計画に取り入れ支援を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしく、一人ひとりの性格、知識、能力の現状把握に努め個々にあった介護支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族はもとより職員および他の関係者などからも情報収集し介護計画に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議において利用者個々の問題点や困難事例の検討をし現状に即した介護支援を実践している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者状況記録及び介護日誌により日々の利用者の様子は個別に記入し職員が情報を共有でき介護計画の見直しに活かせるようしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である病院との連携も図りグループホームとしての機能、役割を活かし柔軟な支援を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアはもちろんのこと他関係機関にもみのり園便り等に広報活動し協力を仰いでいる	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の高齢者の集ういきいきサロンへの参加や地元のゲートボール等へ参加できるよう支援をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所のみで解決困難な状況等に応じ地域包括支援センターと協働して、支援方法など検討している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病院が運営主体であり併設しているため安心して受診ができる。また協力医療機関も近くにあり認知症の治療や相談、助言を受け支援を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	運営母体が病院に隣接しているため利用者の日常の健康管理、状態の変化など報告し、指示を仰ぐなど気軽に連携が取れる仕組みとなっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を伺い医師との連携も図り事業所が対応する最大の支援方法を踏まえて、方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアについては、本人及び家族とも話し合っって安心して生活していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>これまでの暮らしの継続性が損ねないように、これまでの生活習慣、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携を心がけている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>勉強会や職員会議の折に職員の意識向上を計ると共に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>利用者と語る会を設け、思いや希望、要望等が表せるよう働きかけたり自己決定できるよう支援している。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>特に時間を区切った過ごし方はしていない、その日、その時の体調を考慮し、自由に生活する支援を行っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>個々の生活習慣に合わせた支援をし、また行事や外出などのときは、本人の意向に沿った洋服を着るなど支援をしている。希望のある利用者においては行きつけの理容室、美容室へ送迎の支援もしている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>利用者の食べたい物などを聞きメニューに取り入れている。また季節毎に旬の野菜や魚を使い行事食などに取り組んでいる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的 に楽しめるよう支援している	職員は、一人ひとりの嗜好物を把握しており、本 人の様子や時間を見ながら、それらを楽しめるよ う支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ち よく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレの声掛け誘導をする ことで排泄の失敗やオムツ使用などを少なくし気 持ちよく生活できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	原則的には毎日入浴を実施しているが、本人希望 にあわせた入浴を実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支 援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える ように努めている。また一人ひとりの体調や表 情、希望を考慮し、安心して休息が取れるよう に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ ごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を勘案し、役割、たの しみごと、気晴らし、ができるよう支援している	○	踊りの発表会や民謡の披露また調理の手 伝い等取組んでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支援している	園外買い物や初市など買い物が楽しめるよう配慮 している。また移動販売など自ら買い物する喜び をあじわえるよう配慮している。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中で過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配 慮している	昼夜を通し居室にいる場合はロックする、または 利用者の了解をとった上で入室するなどプライバ シーの侵害にならないよう配慮し安全の確認を 行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ組み みをしている	利用者の状況に照らしながら、嚴重に保管すべ きもの、保管管理が必要なもの、利用者が使う ときに注意が必要なものなど区分をし管理して いる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐた めの知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事 故防止に取り組んでいる	現在の利用者の状況の応じて、想定される事 故を職員で検討し改善すると共に事故防止に取 組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員 が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っ ている	すべての職員が応急手当の講習会に参加し心 肺蘇生法や骨折の応急処置ができるよう訓練 している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人の協力を得られるよう働きかけ ている	年2回利用者と共に避難訓練を実施し消防署 の講習をいただき安全に避難できるよう努めて いる。	○	地域住民を交えた避難訓練を計画して いる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクにつ いて、把握しており、家族等に対し対応策を 説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結 び付けている	毎日のバイタルチェック及び様子観察において異 変の早期発見に努め、気付いた際には、情報を共 有し病院との連携を図り対応している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬管理台帳により利用者個々人の薬の内 容を把握し病院と連携をとり対応している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予 防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働 きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として、毎朝の牛乳、10時ヨーグルト の提供により便秘予防としている。また水分補給 を徹底すると共に食前体操をするなど工夫を凝ら し便秘対策に取り組んでいる。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしてい る	毎食後の口腔ケアは職員の声かけ援助にて習慣化 され実施している。援助が必要な利用者について は職員が指導すると共に支援する。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	一人ひとり嗜好を献立に取り入れ献立表を作成し ている。また個人の食事量の把握をし提供してい る。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等)	感染症の予防についてはマニュアルを作成し、全 職員で学習し、知識の向上及び予防に努めてい る。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理面においては特に気をつけている。食中毒を出さない為の意識向上に職員皆心がけて調理を行っている。また食材については新鮮な物を毎日必要なだけ調達している。安心、安全な食の提供を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口の門及び玄関は常に開放し家族はもちろん近隣住民が気軽に立ち寄れるよう配慮している。又高齢者や障害者が安心して出入りできるようスロープを備えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには四季折々の花々を飾り利用者が快適に過ごせるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関脇にはソファや机等を置き独りになれる空間づくりをし、又ゆっくりおしゃべりができる場所を提供している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し住み慣れた自分の家財道具等を持ち込み本人が居心地良く生活できるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はもちろんのことリビングには空気清浄機イオン発生装置を完備し利用者の健康管理面および快適に過ごせるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっている。また各所に手摺を備え付け安全確保に努め車椅子でも自由にトイレ、居室の出入りが可能なように配慮している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には一人ひとりネームプレートを掲げ自分のお城であることをアピールしている。又トイレや浴室の入り口には混乱をきたさないよう工夫している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園の周りは利用者の散歩コースとなっている。自由に散歩できるよう各所に椅子を準備しいつでも休憩ができるように配慮している。又菜園の季節ごとの草花を楽しめるよう利用者と共に手入れを行っている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

項 目		回答	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 地域の方々や利用者の知人また家族などが来園しやすいように玄関はいつも開放している。利用者が退屈しないよう外出の機会を多くしている。